

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入を促進するための 教育課程の特例措置について(案)

1. 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)について

- 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(以下、IBDP)とは、国際バカロレア機構が実施する国際的な教育プログラム。16歳～19歳を対象としたプログラムで、2年間で履修し、最終試験に合格すると、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)を取得できる。
- 「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」(平成25年6月14日閣議決定)において、以下の通り提言。
「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)。」
- 「国際バカロレアアドバイザー委員会報告書(2014年4月)」において、IBの科目と学習指導要領の科目の対応関係について整理を行い、一定の考え方を示すことが重要である旨提言。
- 教育再生実行会議第七次提言(平成27年5月14日)において、以下の通り提言。
「国は、国際バカロレア認定校においては、学習指導要領と国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの双方を、より無理なく満たせるようにするための措置を講じる。」

2. 学校教育法施行規則改正の方向性

- 学校教育法施行規則を改正し、国際バカロレアと学習指導要領の双方を無理なく履修できる特例措置を新設する。具体的には、以下の内容を告示で定める。
 - ① 学校設定教科・科目として設置したIBDPの科目について、生徒及び学校の負担を軽減するために、卒業に必要な単位数に算入できる上限を拡大(20単位⇒36単位)すること。
 - ② 英数理の必履修科目及び総合的な学習の時間については、関連するIBDP科目の履修をもって代えることができること。
 - ③ 国語以外の教科等については、英語による指導を行うことができること。
- 本年夏頃を目途に、公布・施行。

国際バカロレアについて

国際バカロレアについて

国際バカロレア（IB）について

- ・国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。**特徴的なカリキュラム、双方向・協働型授業**により、**グローバル化に対応した素養・能力を育成**。
世界140以上の国・地域、4,211校で実施（平成27年6月現在）。
- ・高校レベルのディプロマプログラム（DP）は、**国際的に通用する大学入学資格（IB資格）**が取得可能であり、**世界の大学入学者選抜で広く活用**。

「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」（平成25年6月閣議決定）
国際バカロレア認定校等を2018年までに200校に

※平成27年5月現在
認定校：25校 候補校：11校

導入の意義

①グローバル人材の育成

課題発見・解決能力、
コミュニケーション能力等

②国際的通用性

国内外への進路の多様化

③初等中等教育の質の向上

大学の国際化・活性化

現在の主な取組

「日本語DP」（平成27年度予算額 82百万円）

DPの一部科目を、英語とともに日本語でも実施可能とするプログラム。国際バカロレア機構との協力の下、早ければ一部の学校で平成27年度から日本語DP課程が開始できるよう開発・導入を推進

※日本語DP対象科目： 経済、歴史、生物、化学、物理、数学、Theory of Knowledge、Extended Essay、Creativity/Action/Service

IBに対応可能な教員の養成・確保

IB教員養成WSの開催、特別免許状の授与促進等

大学入学者選抜におけるIBの活用促進

近年、我が国の大学でIBを活用した入試の導入が加速

学習指導要領との対応関係の整理

国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会

IBに関心を有する高校等の連携・情報共有の場

※平成27年5月現在、59校・機関が構成員として、26教育委員会がオブザーバーとして参加。

国際バカロレアの推進に関する提言等

・日本再興戦略 (平成25年6月14日 閣議決定)

「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)。」

・教育再生実行会議第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」(平成25年5月28日)

「国は、国際バカロレア認定校について、一部日本語によるディプロマ・プログラムの開発・導入を進め、大幅な増加(16校→200校)を図る。」

・教育再生実行会議第四次提言「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」(平成25年10月31日)

「大学は、入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。」

・教育再生実行会議第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」(平成27年5月14日)

「国は、国際バカロレア認定校においては、学習指導要領と国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの双方を、より無理なく満たせるようにするための措置を講じる。」

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムのカリキュラムについて

- ① 各グループから1科目ずつ選択し、計6科目を2年間で履修。ただし、グループ6(芸術)は他のグループからの科目に代えることも可能。

6科目のうち、3~4科目を上級レベル(HL,各240時間)、その他を標準レベル(SL,各150時間)として履修。

グループ名	科目例
1 言語と文学 (母国語)	言語A : 文学、言語A : 言語と文学、文学と演劇
2 言語習得 (外国語)	言語B、初級語学
3 個人と社会	ビジネス、 経済 、地理、 歴史 、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、心理学等
4 理科	生物 、 化学 、デザインテクノロジー、 物理 、コンピューター科学等
5 数学	数学スタディーズ、 数学SL 、 数学HL
6 芸術	音楽、美術、ダンス、フィルム、演劇

- ② また、プログラムの「コア」となる、次の3つの必修要件を履修。

課題論文(Extended Essay) : 履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、研究成果を4,000語(日本語の場合は8,000字)の論文にまとめる。

知の理論(Theory of Knowledge) : 「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探求する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低100時間の学習。

創造性・活動・奉仕(Creativity/Action/Service, CAS) : 創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。最低150時間の学習。

- ③ IB資格の取得には、上記を全て履修し、外部評価(国際バカロレア試験等)及び内部評価を通じて、原則として45点満点中24点以上を取得する必要。配点は、6科目につき各7点(計42点)、3つの必修要件で計3点。

※「日本語DP」について

DPの授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、その一部科目を、日本語で実施可能とするプログラム。 内の科目と必修要件が、日本語でも実施可能。

なお、日本語DPでも、6科目中2科目(通常、グループ2(外国語)に加えて更に1科目)は、英語等で履修する必要。

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校

学校名
※仙台育英学園高等学校（宮城県）
※ぐんま国際アカデミー（群馬県）
インディア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン(東京都)
K・インターナショナルスクール（東京都）
清泉インターナショナルスクール（東京都）
セント・メリーズ・インターナショナルスクール（東京都）
※玉川学園（東京都）
※東京学芸大学附属国際中等教育学校（東京都）
※東京都立国際高等学校（東京都）
※インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢（長野県）
サンモール・インターナショナルスクール（神奈川県）
ホライゾン・ジャパン・インターナショナル・スクール（神奈川県）
横浜インターナショナルスクール（神奈川県）
※加藤学園暁秀高等学校・中学校（静岡県）
名古屋国際学園（愛知県）
※名古屋国際中学校・高等学校
同志社国際学院（京都府）
※立命館宇治高等学校（京都府）
関西学院大阪インターナショナルスクール（大阪府）
カナディアン・アカデミー（兵庫県）
※A I C J 高等学校（広島県）
広島インターナショナルスクール（広島県）
福岡インターナショナルスクール（福岡県）
※リンデンホールスクール中高学部（福岡県）
※沖縄尚学高等学校（沖縄県）
計 2 5 校

※・・・学校教育法第 1 条に規定されている学校

IBディプロマ取得状況

2014年におけるIBディプロマ取得状況

IBディプロマ受験者 (全体)	74,290人	うち日本人受験者	644人
IBディプロマ取得者 (全体)	59,628人	うち日本人取得者	583人
IBディプロマ取得率	80.3%	日本人IBディプロマ取得率	90.5%
日本でのIBディプロマ受験者	314人	うち日本人受験者	209人
日本でのIBディプロマ取得者	291人	うち日本人取得者	194人
日本におけるIBディプロマ取得率	92.7%	日本におけるIBディプロマ日本人取得率	92.8%

2014年のDP校 = 19校 → 1DP校あたり年間15名程度のDP取得者

国際バカロレアを活用した大学入試

全学部導入	一部学部導入	導入予定大学	検討中
筑波大学	東京外国語大学	北海道大学（平成30年度）	会津大学
大阪大学（平成29年度より）	横浜市立大学	東京大学（平成28年度）	東京医科歯科大学
早稲田大学（平成32年度目途）	立教大学	京都大学（平成28年度）	東京工業大学
岡山大学	慶應義塾大学	広島大学（平成28年度）	名古屋大学
国際教養大学	順天堂大学	九州大学（平成29年度）	お茶の水女子大学
上智大学（平成28年度より）		熊本大学	長岡技術科学大学
立命館アジア太平洋大学		東京芸術大学（平成28年度目途）	明治大学
玉川大学		金沢大学（平成30年度以降）	
国際基督教大学		京都工芸繊維大学（平成29年度以降）	
関西学院大学		東洋大学（平成28年度）	
		法政大学（平成28年度）	
		創価大学（平成28年度）	
		大阪市立大学（平成28年度）	
		立命館大学（平成27年度以降）	
		東北大学（平成29年度）	
		千葉大学	
		豊橋技術科学大学	
		芝浦工業大学（平成32年度以降）	
<p>【注】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校の卒業生も対象としているものを記載（帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く）。 ・本資料は、各大学の募集要項、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択調書その他の公表資料に基づき作成したものであり、必ずしも全ての情報を網羅的しているわけではない。 			

【参考】 The IB mission (IBの使命)

- 国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。
- この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。
- IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

【参考】国際バカロレア（IB）の学習者像

（出典）国際バカロレア機構HP「IB Learner Profile」より文部科学省作成（2014/11/20アクセス）

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界の構築に貢献する人間を育成します。IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い知識を探究します。地域社会やグローバル社会の重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のもの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

【参考】国際バカロレアのプログラムについて

グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じて、以下の教育プログラムを提供。平成27年6月10日現在、世界140以上の国・地域、4,211校（日本国内:34校）において実施。

（１）プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）【1,277校（国内:18校）】

3歳～12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。どのような言語でも提供可能。

（２）ミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）【1,161校（国内:9校）】

11歳～16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。

（３）ディプロマ・プログラム（DP）【2,834校（国内:25校）】

16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

（４）キャリア関連プログラム（CP）【94校（国内：-校）】

16～19歳を対象として生涯のキャリア形成に役立つスキルの習得を重視したキャリア教育・職業教育に関連したプログラム。一部科目は、英語、フランス語又はスペイン語で実施。